

観光振興対策特別委員会会議録

平成30年5月21日

場 所 第5委員会室

平成30年5月21日（月曜日）

午前10時0分開会

会議に付した案件

○概要説明

商工観光労働部、総合政策部、県土整備部

1. 本県の観光の現状と課題について
2. スポーツキャンプ・合宿の現状について

○協議事項

1. 委員会の調査事項について
2. 調査活動方針・計画について
3. 県内調査について
4. 次回委員会について
5. その他

出席委員（11人）

| | | |
|-----|---|-------|
| 委員 | 長 | 黒木正一 |
| 副委員 | 長 | 西村賢 |
| 委員 | | 星原透 |
| 委員 | | 井本英雄 |
| 委員 | | 松村悟郎 |
| 委員 | | 二見康之 |
| 委員 | | 日高陽一 |
| 委員 | | 太田清海 |
| 委員 | | 満行潤一 |
| 委員 | | 重松幸次郎 |
| 委員 | | 井上紀代子 |

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

商工観光労働部

| | |
|-----------|------|
| 商工観光労働部長 | 井手義哉 |
| 商工観光労働部次長 | 中原光晴 |

| | |
|----------------|------|
| 観光経済交流局長 | 酒匂重久 |
| 部参事兼 商工政策課長 | 小堀和幸 |

| | |
|-----------------|-------|
| 観光推進課長 | 岩本真一 |
| スポーツランド 推進室長 | 丸山裕太郎 |
| オールみやざき 営業課長 | 高山智弘 |

総合政策部

| | |
|-------------------|------|
| 総合交通課長 | 小倉佳彦 |
| 記紀編さん記念事業 推進室長 | 坂元修一 |

県土整備部

| | |
|-------------------|------|
| 港湾課長 | 江藤彰泰 |
| 空港・ポートセールス 対策監 | 横山義仁 |

事務局職員出席者

| | |
|---------|-------|
| 政策調査課主査 | 持永展孝 |
| 総務課主幹 | 木佐貫真一 |

○黒木委員長 皆さん、おはようございます。
ただいまから、観光振興対策特別委員会を開
会いたします。

まず、委員席の決定についてであります
が、ただいま、御着席のとおり決定してよろ
しいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 それでは、そのように決定
いたします。

次に、本日の委員会の日程について
ありますが、お手元に配付の日程（案）を
ごらんください。

本日は、商工観光労働部を初め、観光振興に

関連する関係各課室に御出席いただきます。

また、本日は、委員会設置後初の委員会でありますので、商工観光労働部から当委員会の設置目的に関する事項として、本県の観光の現状と課題及びスポーツキャンプ・合宿の状況について説明をいただきます。その後、調査事項及び調査活動方針・計画について御協議いただきたいと思いますが、このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 それでは、そのように決定いたします。

それでは、執行部入室のため暫時休憩いたします。

午前10時1分休憩

午前10時2分再開

○黒木委員長 それでは、委員会を再開いたします。

本日は、商工観光労働部、総合政策部及び県土整備部においでいただきました。

まず、初めに一言御挨拶を申し上げます。

私はこの特別委員会の委員長に選任されました東臼杵郡選出の黒木正一でございます。さきの臨時議会におきまして、この11名が委員として選任され、この1年間調査活動を行うこととなりました。

今、観光を取り巻く状況といいますと、訪日外国人が急増しておりますし、民泊新法を初めいろんな観光関係の法律が一斉にことし改正されるということ。それから国においても、隣県においても、本県におきまして、近い将来、観光誘客につながるような大きな行事が予定をされております。

その背景のもとで、この委員会は設置された

というふうに考えるところでありますので、今後、本県の観光振興について努力してまいりたいと思っておりますので、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、委員を紹介いたします。

最初に、私の隣が、日向市選出の西村賢副委員長です。

続きまして、皆様から見て左側から、都城市選出の星原透委員です。

延岡市選出の井本英雄委員です。

児湯郡選出の松村悟郎委員です。

都城市選出の二見康之委員です。

宮崎市選出の日高陽一委員です。

続いて、右側から、延岡市選出の太田清海委員です。

都城市選出の満行潤一委員です。

宮崎市選出の重松幸次郎委員です。

宮崎市選出の井上紀代子委員です。

以上で委員の紹介を終わります。

執行部の皆さんの紹介につきましては、お手元に配付の出席者配席表にかえさせていただきますと存じます。

それでは、早速、概要説明をお願いいたします。

○井手商工観光労働部長 おはようございます。

商工観光労働部長、井手でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

さて、本県にとりまして、観光は裾野の広い大変重要な産業の一つということで、本県が持つ地域資源を生かした魅力ある観光地づくりに取り組むとともに、スポーツランドみやざきの推進や神話、神楽など記紀編さん記念事業の取り組み、さらには宮崎牛を通じた食への取り組み等、本県がこれまで築いてまいりました強みを生かして誘客等を行ってきたところでござい

ます。

このような中で、我が国は、2019年から2021年にかけて、ラグビーワールドカップ、そして東京オリンピック・パラリンピック、さらには関西ワールドマスタースゲームズと世界的なスポーツイベントが開催されます、いわゆるゴールデン・スポーツイヤーズを迎えます。

本県におきましても、2020年は記紀編さん記念事業の集大成の年でもありますし、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭が開催される年でございます。かつてない規模の人々の交流が期待できます。これらの機会をしっかりと捉えまして、本県観光の飛躍へのチャンスとしていかなければならないと考えております。

そのため平成30年度予算で認めていただきました観光みやざき未来創造基金、これも活用しながら、商工観光労働部以外の県庁の各部局とも十分に連携を図って、国内はもとより、海外からも選ばれる観光みやざきの実現に向けまして、職員一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。

黒木委員長を初め、委員の皆様方の御指導、御支援をよろしくお願い申し上げたいと思っております。

本日は、お配りしております資料、表紙の下に目次を掲載しておりますけれども、ここにありまして、本県の観光の現状と課題について、そしてスポーツキャンプ・合宿の状況についての2点について御説明をさせていただきたいと思っております。

詳細につきましては、この後、それぞれ担当課長・室長のほうから説明をいたします。よろしくお願い申し上げます。

私からは以上でございます。

○岩本観光推進課長 それでは、資料の説明を

させていただきます。

資料の1ページをお開きください。本県の観光の現状と課題についてでございます。

まず、1の現状についてでございます。資料の1ページから3ページまで、主な観光の指標であります観光入込客数、それから延べ宿泊者数、それから観光消費額の3つについて、それぞれ本県の経年の推移と全国でどのぐらいの位置にあるかというのを示しているところでございます。

まず、(1)の観光入込客数の推移でございますけれども、表の1をごらんください。

表の右側に波線がございます。左と右で大きく数字が異なっておりますが、これはその下の米印にも記載しておりますように、平成22年に集計方法を国の共通基準に基づいて変更したことによるものでございます。そういった前提でございまして、ごらんいただければと思います。

ごらんいただきますとおり、平成22年に口蹄疫、翌23年には新燃岳噴火や東日本大震災の影響で入込客数が大きく落ち込みました。しかし、25年には初めて1,500万人台を突破いたしまして、翌26年、また下がっておりますが、これは水害や消費税の増税といった要因があったところでございます。そして、28年に熊本地震等によってまた落ち込んだということもございます。ただ、全体的には、やや増加傾向にあるということが言えるのではないかと考えております。

表の2をごらんください。平成28年のデータでございますけれども、本県の入込客数は全国で29番目。この表の中に記載のない長崎県と沖縄県を除く九州内では最下位というところでございます。

ちなみに長崎県と沖縄県については、入込客

数のデータが公表されておられませんので、この表の中に入っていません。

次のページの（２）延べ宿泊客数の推移でございすけれども、表の３をごらんください。こちらやや増加傾向にありまして、平成29年につきましては、これは速報値となっておりますけれども、391万1,000人泊で、これも統計の出し方を変更しました平成22年以降では、最多となっております。

その下の表の４、全国比較を見ますと、本県は39番目、九州内では7番目となっております。入込客数では佐賀県を下回りましたが、延べ宿泊者数では、辛うじて同県を上回っている状況でございます。

次に、3ページをお開きください。

（３）観光消費額の推移でございす。表の５をごらんください。こちらは平成28年の熊本地震で大きく消費額が落ち込みました。しかしそれ以前は、1,500億円台でほぼ横ばいで推移をしていたというところでございす。

その下の表の６でございすけれども、全国比較でいきますと、本県は34番目、データのある九州6県の中では最下位ということになっております。

次に、4ページをごらんいただきたいと思ひます。

2の課題でございす。本県観光の現状から見えてくる課題の主なものを3つ上げております。

まず、1番目の課題ですが、（１）にありますように、本県は宿泊客よりも日帰り客の割合が大きいことが上げられるかと思ひます。

表の7から表の9までは、平成28年の南九州3県におきます日本人の観光入込客数と消費額に関するデータでございす。

表の7をごらんください。ごらんのように本県は観光入込客数では、鹿児島県とほぼ同程度でございすけれども、その下の表の8の消費額で比較しますと、鹿児島県の2,306億円に対し、本県はその半分程度の1,261億円にとどまっております。

その理由としましては、表の8で、上が宿泊、その下のラインの部分が日帰りということになっておりますが、この宿泊、日帰りの割合が違ふということ、それと表の9の消費額単価の比較を見ればわかりますように、本県は他県と比べて、消費単価の高い宿泊客の割合が少ないということが上げられるかと思ひております。

その主な要因でございすますが、上のほうにございすけれども、まず1つ目としましては、本県には温泉のような宿泊動機につながるキラーコンテンツが少ないということが言えるのではないかと、そして2つ目としましては、県外からの観光客のうち、宿泊を伴います遠方からの九州外からの入込客が約3割と少なくなっておりますして、約6割が日帰り圏内である隣県からの入り込みといったようなことが上げられるのではないかとと思ひております。

次に、5ページをお開きください。

2つ目の課題といたしましては、（２）にありますように宿泊者数の月別変動が大きいことが上げられるかと思ひます。

表の10をごらんいただきたいと思ひます。これは平成29年の速報値ですけれども、南九州3県のホテル・旅館等の月別客室稼働率を示したものです。実線であらわしておりますのが、本県の状況でございす。

全体の傾向としましては、その上の波線で示しております鹿児島県とよく似通っておりますけれども、本県の特徴といたしまして、スポー

ツキャンシーズンであります2月とゴルフマンスの11月の稼働率が6割を上回るという一方で、梅雨時期の6月の稼働率が5割を大きく下回っておりまして、繁忙期と閑散期の差が他県よりも大きいことが見てとれます。

今後は、繁忙期の稼働率を高どまりさせると同時に、閑散期の稼働率をいかに引き上げるかというのも課題ではないかと考えております。

その下、3つ目の課題といたしまして（3）でございますが、インバウンド需要を十分に取り込めていないことが上げられるかと思えます。

表の11をごらんください。平成29年までの本県の外国人延べ宿泊者数の推移を、国・地域別の内訳がわかるようにグラフにしたものです。全国的なインバウンド需要の高まり、それから本県におきましても、韓国からのLCC就航やアジアナ航空の増便などもありまして、平成29年の本県における外国人延べ宿泊者数は、速報値で31万人泊と過去最高を記録しております。

しかしながら、その次のページでございますが、表の12でございますけれども、都道府県別の外国人延べ宿泊者数の平成29年速報値をグラフにしたものですけれども、本県は、全国中位の26番目とはなっておりますけれども、インバウンドに関しては、まだまだ大都市圏などに入り込みが集中しているということが見てとれるのではないかと考えております。

そして、その下の表の13をごらんください。インバウンドについては、九州7県でも大きく伸びております。熊本地震のあった平成28年でさえ微増という傾向が見てとれますし、29年は、速報値で751万3,000人泊と過去最高となっております。

そうした中で、本県は一番上の位置にしておりますけれども、平成28年に佐賀県に抜かれま

して、九州ではインバウンドの延べ宿泊者数最下位という状況となっております。

前ページのほうのその要因でございますけれども、前ページに戻っていただきますが、このように本県のインバウンドが他県に及ばない理由といたしまして、①ですけれども、まず、海外からの入国ゲートとなる成田や羽田、関西空港などのハブ空港、そして九州内におきましては、福岡空港などの拠点空港から県内の観光地、特に高千穂とか県内のさまざまな観光地までが遠く、二次交通での移動に時間がかかるといった、アクセス不便であるというようなことが上げられるかと思えます。

また、もう一つは、まだ本県の知名度が低く、特に直行便のない国や地域では、外国人に対する発信力が弱いということも上げられるのではないかと考えているところであります。

次に、7ページをお開きください。

3の今後の取組の方向性でございます。ただいま御説明しました課題を踏まえまして、今後は、主に以下の3つの取り組みが重要になるのではないかと考えております。

まず、1つ目といたしましては、宿泊客の割合が低い本県の現状を踏まえまして、宿泊に結びつくような観光メニューの開発等に力を入れてまいりたいと考えております。

考えられる取り組みといたしまして、その下に例を挙げておりますが、まず旅行者のニーズを的確に捉えた宿泊を伴うような朝型、夜型の観光メニューの開発、それから神話や食など本県観光の強みを生かした県内観光地をめぐる周遊型の旅行の提案、あるいはゴルフ、サーフィン、サイクリングなど滞在時間が長いスポーツツーリズムの推進。

また、4点目としまして、こうした宿泊に結

びつく観光メニューの効果的な展開やスポーツキャンプの通年化の推進などによって、観光客が年間を通じて本県を訪れ、宿泊するよう促していく必要があるのではないかと考えているところです。

次に、②の海外や九州以外の大都市圏からの入り込みが他県よりも少ないという現状を踏まえ、こうした地域に対する誘客プロモーションの強化が必要だと考えているところがあります。

その際は、どういった客層をターゲットにするのか、あるいはそのターゲットに対してどのようなアプローチをするのが最も効果的かなど、マーケティングに基づいた戦略立てをしながら、効果的なプロモーションを行うことが重要だと考えています。

また、インバウンドに関しましては、定期航空路線のある国・地域からの誘客をさらに強化しますとともに、欧・米・豪を初め本県の知名度がまだ低い国や地域からの誘客に関しましては、隣県や九州観光推進機構などと広域で連携しながら、プロモーションを実施するのがより効果的ではないかと考えているところです。

そして、最後に③ですが、取り組みの3つ目といたしまして、また来たいと思わせる観光地づくり、すなわちリピーターの確保というのが非常に重要になると考えております。

そのためには、まず、おもてなしの充実とそれにかかわる人材の育成、次に、特に訪日外国人が安心して快適に旅行を楽しめるような受入環境づくり、例えば多言語で利用できる情報通信環境の充実や二次交通アクセスの改善などが上げられるのではないかと考えております。

また、魅力ある観光地づくりの取り組みとしまして、世界農業遺産やユネスコエコパークな

どのブランドを生かした世界ブランドのみやぎづくりや、本県の豊かな自然やすぐれた景観を生かした美しい宮崎づくりの取り組みなども推進していく必要があると考えているところです。

私の説明は以上でございます。

○丸山スポーツランド推進室長 私からは、スポーツキャンプ・合宿の状況について御説明をさせていただきます。

説明資料の9ページをお開きください。

初めに、1の平成28年度の受入状況についてであります。

まず、(1)の受入団体数・延べ参加人数であります。平成28年度は熊本地震の影響等により、前年度よりやや減少はいたしました。受入団体数1,310団体、延べ参加者数18万2,235人と、いずれも過去2番目を確保し、全体的にも右上がりの傾向が続いている状況であります。

次に、(2)の月別の延べ参加人数であります。ごらんとおりプロ野球・Jリーグ等の春季キャンプが行われている1月から3月、右側でございますけれども、これが3万人前後と一番のピークで、夏合宿の8月がこれに続いております。

一方で、年度初めの4月から6月が明らかに閑散期でありまして、今、観光推進課長が申し上げましたとおり、通年化の課題があると受けとめております。

次の10ページをお願いします。

2の平成30年春季プロ野球・Jリーグのキャンプ状況（速報）についてであります。

1で御説明した県外からのスポーツキャンプ・合宿の受け入れ実績につきましては、現在、29年度を集計中でございます。本日は28年度を御説明いたしましたけれども、今春、平成30年

春季のプロ野球・Jリーグの観客数等につきましては、別途、速報として整理しておりますので、その状況を御説明いたします。

ごらんのとおり、今春は7市町において、プロ野球7球団、Jリーグ17チームのキャンプを受け入れたところであります。

資料の左下にプロ野球各球団の観客数の速報値を記載しておりますけれども、ことしは、読売巨人軍宮崎キャンプ60周年記念OB戦の実施等もありまして、ほとんどの球団が前年を上回る観客でにぎわったところであります。

プロ野球・Jリーグのキャンプは、まさにスポーツランドみやぎきを長年牽引する観光みやぎきの大きな財産であります。今後とも、関係市町等と連携し、キャンプの受け入れに万全を期してまいりたいと存じます。

なお、資料には記載しておりませんが、ラグビーワールドカップの公認チームのキャンプ地の内定等について御報告させていただきます。

県議会の皆様方の御支援のおかげもありまして、これまでの誘致活動が実を結び、先月4月20日に組織委員会から、強豪国イングランドの公認チームキャンプ地として、その内定を受けることができました。さらに今月初めには、イギリスのトライアスロン、パラトライアスロンチームが本県でキャンプを実施されたほか、今月27日からは、ラグビー日本代表が、前回のワールドカップ以来3年ぶりに宮崎合宿を予定されるなど、来年のラグビーワールドカップ、そして2年後の東京オリ・パラなど、メガスポーツ大会に向けた国際級のキャンプ誘致受け入れもいよいよ本格化してまいりました。

今後、宮崎市など関係機関と連携し、万全の受け入れ体制を整え、スポーツランドみやぎきのさらなる飛躍につなげてまいりたいと存じま

す。

私からの説明は以上であります。

○黒木委員長 執行部の説明が終わりました。

御意見、質疑がございましたらお願いいたします。

○二見委員 ちょっと確認でお伺いしたいんですけれども、本県の観光の現状と課題の中で延べ宿泊数の推移というのがあるんですが、こっちは場合は、観光入込客数の比較とかではないので、ビジネス客等も含めた数という認識でよろしいんですか。

○岩本観光推進課長 この数値につきましては、ビジネス客も含んでおります。

○二見委員 となると、こっちの観光客というところのデータと宿泊数の全部のデータというのと、ここ辺の精査というか、どういう割合で来ているかとかいうのも、やっぱり今後のいろんな政策を考える上では大事なのかなと思うんですけれども。そこ辺、この4ページの課題でも、宿泊客より日帰り客の割合が多いということで、これは多分、観光客のことを言っているんだと思うんですが。その観光客の対策なのか、そういうビジネスとかの人たちも含めての対策なのか、そこ辺の整理というのはされていらっしゃるんですか。

○岩本観光推進課長 ほとんどが観光客のデータになっておりますので、ビジネス客も含めて、対策としては、このデータをもとに考えていきたいというふうに考えているところでございます。

○星原委員 それぞれ本県の現状と課題ということで報告いただきながら、表なんかを見て思ったのは、結構、宮崎は観光とかいろんなことを言っている割には、やっぱり九州内でこの数字だなというのを見て、多分ずっと同じような流

れでここ10年来なら10年来、流れてきている。これからの取り組みを見ても、やっぱり以前から聞いているような話の中身が流れてきているので、これから5年先、10年先の量はふえていくかもしれないけれども、それはどこもふえていくような形で、新たに何をどうやって伸ばしていくかということに取り組まないといけないのかなというふうに思うんですね。

要するに、春のキャンプとか、あるいは韓国からの人たちがゴルフで冬場は来てくれるので、2月、3月あたりはふえているのかな。通年通してどういうふうな形で今後取り組むのかということが重要で。

一つは、今ビジネスホテルは結構できていますけれども、ホテル神田橋とかプラザホテルとかそういうホテルが逆になくて、観光用の少しグレードの高い感じの宿泊の分野においては、多分それを補えるだけのホテルが減った関係もあるし、これからもそういうものが出てこない、ふやそうとしてもなかなか厳しいのかなというふうに思いますね。

そして、やっぱりあとは、要するにここには人数だけで書いてあるけれども、男女、年代別の割合についてどういう形で皆さん方が把握されているのかな。その辺のところをターゲットをどこに絞ってとか、少ない月にはどんなイベントをして、呼び込むための努力をするのかとか、具体的にある程度そういったものを絞りながらいかないと、多分、春のキャンプのときは、話を聞くと、泊まる場所がないとかという話を聞くわけですね。

ですから、逆にこの表でいくと、少ない月のときをどういうふうな形で宮崎に、どういう層を呼んでくるのかというのを具体的に団体なんかとも協議しながら取り組みをして、PRをす

るでも、そういう形のとときに何か宮崎のものを売るものはないのかと。そういうことをやって詰めていかないと、なかなかふえないでしょうし、特に金額の面で鹿児島の方が半分近くというのは、やっぱり宿泊が少ないからだ。宿泊すれば、やっぱり夜は飲食店街に飲みに出たりとかいろんな形で、1人の消費額というのはふえていくだろうというふうに思うんですね。だからそういうものをどうしていくのか。ただ漠然といろんなことをやろうやろうとするんじゃなくて、そういう月別の考え方とか、男性、女性、年齢そういったものをどういうふうにしていくのか。特に宮崎はやっぱり農畜産・水産物、要するに食料供給県というか、おいしいもんがいっぱいあると言われているわけですから、そういうものでどういうふうに取り組みを進めていくのかということをやっていく。だから、国内の客と、今度、海外からの客においては、海外からどういうところからどういうことと呼んできたなら宮崎に来てくれるのかというのを具体的にそういうことをやっていかないと、こういう表で我々に示されても、来年どれぐらい、パーセントで5%伸ばすとか10%伸ばすんだとかという目標を掲げて、その目標を達成するには何をどうしなくちゃいけないかという、そこまでやっていかないと、ここ10年来見ているのと同じような形で、何かいろんな問題が起きれば減る。全体的にどこもふえたときは、同じようにふえる。国のほうでは2,000万人を超えて2,800万人あるいは4,000万人と言われているわけですから、逆に言えば、倍になるためには、宮崎もどうしたら倍に、ここを5年前や3年前から倍にするためにはどうするのか。そういうものを真剣に取り組んでいかないと。先ほど言われた基金がある。基金をどういうふうにかした使い方をす

るのかというところまで示して、いろんな団体の人たちもそれに向けて取り組みをやるような形、方向性を示してあげないと、なかなか簡単に進まない。

今、どこもやっぱり各県、九州各県も、あるいは全国的にも、取り組みは同じことをやると思うんですね。その中で伸ばすためには何をどうするかというのを、もう少し具体的にやっていかないと厳しいのかなというのを感じたところですよ。

○岩本観光推進課長 今の星原委員がおっしゃられたとおりで思っております。

今回は、全体の状況というのをいま一度、ゼロからもう一回再点検してみようというようなことで、この大ざっぱなデータになりましたけれども。

おっしゃられるように、観光客のニーズも年々変化しておりますし、海外からのお客さんもふえる中でもいろんな、国によってもニーズも違いますということもありますので、そういったニーズを踏まえたターゲットごとの効果的な手法でしっかりアピールをしていかなくちゃいけないなということは思っております。

まさにそれを従来からの取り組みではあるんですけども、DMOといったことでマーケティングの考え方をしっかり取り入れながら、ターゲットにしっかりと刺さるような魅力を伝えていくというようなことが非常に大事になってくるかなというふうに思っているところでございます。

○星原委員 もう一点。日本はもう人口減少が進んでいるわけですから、国内の需要というのは減る一方だと思うんですね。どっちかといえ、伸ばしてしていく。やっぱり海外からこれから東アジア地域と経済交流戦略とかグローバ

ル戦略とかを打ち出してきた、その成果がどう出てくるのかというあたりをもっと深く踏み込んでいって、やっぱり海外からの人たちが何を求めて宮崎に来るのか。スポーツをゴルフとかサーフィンとか色々書いてあるけれども、そういった人たちをふやしていこうとするのか。食を基準にして、食べるもので、やっぱり行っておいしかった。じゃあ、仲間を連れてまた来るとか、いろんな人にPRしてもらえるような段取りとか、そういう食を中心にした形なのか。そういったものはっきり打ち出して取り組んでいくべき時期に来ているんじゃないかなというふうに思うんですね。そういうことを考えて、これから取り組んでいただければというふうに思います。

以上です。

○太田委員 1ページが一番下の表の2ですね。これ福岡が入込客数は3番手につけていますよね。私どもがイメージでいうと、例えば京都。京都は、この表でいうと8番目ぐらいですかね。京都はそういう位置につけていますよね。私どもがイメージでいうと、京都のほうが強いんじゃないかと思うんですが、えらい福岡が健闘している。この京都という、寺社仏閣がいっぱいあって、修学旅行なりいろんな外国人も、後で外国人のデータも出ていますけれども、入込客数とかは多いはずなのに、福岡がこんなに強いというのはなぜなのか、どういう実力があるのかですね。

今のは1ページのところです。今度は3ページが一番下の表の6。これも観光消費額が福岡は2番手につけて、京都は7番手ですよ。福岡ってすごいなど。何をもちってこのような強さがあるのか。これはどう分析されますかね。これは難しいかもしれませんが。福岡はなぜそん

なに強いのか。

○岩本観光推進課長 直結するようなデータはちょっと今あれなんですけど、恐らくクルーズ船による入国が大きいのではないかなというふうに考えているところです。特に中国、台湾等からの大型のクルーズ船、1回に4,000人、5,000人と乗せてくるわけですけども、こういった方々が買い物を中心に福岡県近辺に旅行されるということが大きく影響しているのではないかなと推測しております。

○太田委員 わかりました。その辺の分析が正しければというか、そうなんだろうと思えますが、一つの参考になるのかなと思いました。わかりました。

それと、もう一つよろしいでしょうか。5ページのところの一番上の表の宿泊者数の月別変動が、宮崎県の場合は大きいということ。これも現実で、分析されていると思います。6月というのは、梅雨の時期とか野外での何らかのものがなくなるということなのかなと。そういうことでは、宮崎、鹿児島も影響を受けやすいんだと思います。熊本はなぜ強いのかなとこの分析がなかなか難しいかもしれませんが、満遍なく宿泊数が多いというのは、何かの実力を持っているのかなという気もしますが、ありますか。これは難しいかもしれませんが、どうでしょうか。

○岩本観光推進課長 こちらもちょっとまだ詳しい分析ができておりません。新幹線が通っています熊本、鹿児島と比較してもあんまり、これかなり違いますので、ちょっとここもなかなか難しいところではあるんですけど。

例えば考えられる要因としては、すみません、はっきりわからないんですけども、熊本地震等でいろんな対策を打っているというふうなと

ころで、効果も出ているのかなというふうなことをちょっと思ったりはしたところです。

申しわけございません。これについては明確な根拠といいますか、裏づけになるようなものは、ちょっと私どもでは把握しておりません。

○太田委員 わかりました。ちょっと気になるところで、うちがなぜ弱いのか。それは気候的な問題とかそういう地理的なこととかいろいろあるかもしれませんが、ちょっとその辺は、私どもとして、こう表を見せられると、どうしてかなと思うところです。これはなかなか確定的に言うのは難しいところはあると思いますが、一応そういうふうに感じたところでした。

○井手商工観光労働部長 6月の落ち込みが激しいというのは、本県の過去からの大きな課題の一つでございます。

委員おっしゃるとおり、確かにいろんな要因があるんですけども、6月に雨の多い時期で、屋内型の観光施設が少ないというのが原因の一つと言われたことがございまして、熊本の場合は、レジャーランドとか熊本城とかということで、旅行商品がある程度組めると。雨が降っていても、そこである程度滞在できるような施設があるということで、通年通して旅行商品が組みやすいというお話は聞いたことがあります。本県の場合は、そういう施設が少のうございまして、なかなか6月に大人数を回すような屋外型の観光施設が少ないというのも一つの要因かと。それ以外にもいろいろございまして、そればかりではないというふうには認識をしております。

○井上委員 今の太田委員の指摘は大変おもしろいと思うんですね。福岡と京都はどうしてこんなに違うのかとかっていう指摘ですよ。これは福岡と京都と考えていただくと、全くとい

うぐらいイベントの数が違うんですね。京都で行われる神社仏閣を見てぐるっと回って、御飯を食べて京都で泊まって、というだけではないイベントが、物すごく福岡では開催をされているということ。もう一つは、皆さんも御存じだと思いますが、やっぱり福岡に中国資本がすごく入っているということもあって、中国客の入り込みがすごく多いということ。そういう意味での分析というのはしておく必要があるんじゃないかなと思っている。先ほど、星原委員が言われたとおりなんで、彼がもう全部言ってしまったので、私たちもこの分析が全然間違っているなんて誰も思っていないわけです。ただ、問題は、今後これをどう取り組むのかっていうことです。

私は4月の初めにイタリアに行ったんですが、そのときに言われたのは、日本に対する興味というのは物すごくあるそうです。それも地方に対する興味というのかな。だから、日本政府が出している観光のところで私も話を聞いてきたので、そこは変わりがないと思うんです。ただ、問題は、地方に行きたいと思っても、そのアクセスをどんなふうにして行ったらいいのかということとか、そこがどういうものがあるのかというのが知られていない。

例えば、南で宮崎というところはスキーもできるんですよ、と言ったら、お互い日本人同士なんだけれども、わあー、とびっくりされて、宮崎でスキーですか、みたいな。まだその次元ですか、みたいな感じなんだけれども。やっぱり知られているようで知られていないというところが、残念ながら、宮崎はそういうところがあると思うんです。

だから、今話題になっているじゃないですか。佐賀県は何であんだけタイの人たちが来るのか

みたいなやつがですね。向こうにいる人の中で、タイを日本人が発信しているということが非常に大きな話題になっています。だからこそタイの人たちは佐賀に来ると。だから、やがて佐賀は私たちが追い越して、ずっと前のほうに行かれるんじゃないのかなって、逆に思うんです。だから、何かのきっかけというのは大変必要だと思うんですけれども、どうやって情報を届けていくのかということ、そしてどうやって来たらおもしろいのか、何が宮崎に来たらおもしろいのかということをお知らせできるというのも大変重要なんじゃないですかね。

ちょっと商工観光労働部にお話をしましたシムシステムなんかも含めてそうだけれども、そういうことがしっかりと丁寧なことがされているということは、とても大事なんじゃないかなと思うんです。

宮崎でだめなものってそうないと思うんです。だめなものはない。余りない。でも、売り方が下手くそということだけなんだと思う。プレゼンが下手ということだと思うんです。だから、どこでプレゼンしたときに届くのかということの、そこが何かあんまり議論されていないんじゃないのかなというのは常々思いますね。どこにどんなふうにしたときに発信されていくのかということが、その分析が必要なんじゃないのかなというふうに思いますね。これからまた1年間かけて議論するわけだから、そのあたりのことをうまく分析して、感じてもらえるといいと。

キャンプであれだけの方たちに来ていただいて、宮崎のキャンプ情報というのはすごく出るわけだけれども、それプラスアルファがなかなかない。そのときだけというのがですね。それがちょっと残念だなと思う。

それと意外や意外、オリックスがこんだけファ

ンがおったかという感じもしないでもないですよ。だから、私たちが知らないところで広がっていく部分というのは、やっぱりきちんと分析しておかないと。観光のときに、ターゲットと言われるけれども、ターゲットって何なの。どういう人たちをターゲットとするのかということも含めて、そういう意味での分析というのがちょっと足りない。それに対する対応をどうしていくのかということがなかなかうまく伝わっていないのかなと思う。

ミラノで食博があったときに、宮崎というのは、特別にブースを持ったぐらいあったわけだけれども、その後の詰めが非常に弱かったんじゃないのかなというふうには思いますね。行ってみて、それはすごく感じました。

イタリアみたいところは、イタリア全体が美術館みたいところだから、中世の昔のものがそのまま残ったところで皆さんが暮らしているから、ヨーロッパの人たちはみんなイタリアには来るといような状況のところなので、行って観光で学ぶものといったら、やはり臆せず全てを見せるというぐらいの構えがないと、やっぱり来ていただけないのではないのかなという思いはしましたね。

だから、こんなものって思っていたところが、大変魅力のあるものであったりするわけだから、もう少しその辺での磨き上げ方をちょっと研究されるといいのかなというふうには思いましたね。

○岩本観光推進課長 今、井上委員がおっしゃられたように、しっかりとターゲットごとのニーズ等を分析して、それに一番効果的な施策ということが非常に大事だと思っております。

それでお話のありましたキャンプにつきましても、スポーツキャンプというのは非常に宮崎

県の観光の誘客の柱だと思っております、実は昨年の11月に観光実態調査というのを補正予算をつけていただきまして、実施をして、3月にまとめております。

これによりますと、携帯の発信する電波を拾ったの動態調査だったんですが、初めてこんなことをやったんですけれども、位置情報等を活用しての調査だったんですけれども。これを見ますと、キャンプに来られた方の日帰り客が大体64%ぐらい、1泊以上の宿泊者が残り36%というふうな状況がわかったりだとか、あるいは、ほとんどがキャンプ目的で来られるということで、周辺の観光地にはなかなか足が伸びていないというようなことで。

そういったことを踏まえて、今後は、キャンプ地周辺の観光地なり、あるいは食への結びつけなり、そういった取り組みをもっと強化していかなくてはいけないのではないかなというようにわかりました。

それとあとサーフィンについても、これはインターネットでのアンケート調査をやりましたけれども、宮崎県でのサーフィン経験者というのが45%いまして、その6割が、2回以上のリピーターということでございます。6回以上のリピーターになると、40代の男性というのが顕著でございますので、若いうちに宮崎にサーフィンのファンになってもらって来てもらって。というのが、大体、友達の口コミで連れて来るとい方が多いということで、そういった方を若いうちから誘導することによって、さらに本県のサーフィン愛好者がふえるのではないかなといったようなことも考えております。

そういった細かな分析もやりながら、今後しっかりと対応していきたいなと思っておりますのでございます。

○井上委員 この前、国際コンベンションを宮崎神宮でパーティーとかされたじゃないですか。国際コンベンションというのは、とても有効なんですよ。ああいうものをどう誘致していくか。だから宮崎にイベントが必要というのは、そういうこともそうなんです。だって、シーガイアができたときにスティングが来て、それ以降、宮崎で何か誰かが来るようなそういうものがあつたかということ、ないわけですよ。あのとき初めてスティングが来て、それ以来ぱったりですからね。だから、宮城あたりに行けば、それこそ嵐が来るわ、スマップはもうあれだったけれども、そういう方たちが来るわけですね。やっぱりどうやってそういう大がかりなとか、耳に入り、実際に来ていただいて感じていただくというようなイベントをどうつくり上げていくのかということは、やっぱり考えておく必要があるんじゃないですかね。

また、次の段階として、知事も頑張ってるけどもやろうとされているので、期待はしているところだけれども、やっぱり人が来なきゃいけないのがあるの、リュックサック背負ってでもいいから来なきゃいけないのがあるの、だから、宿泊の高いところじゃなく安いところに泊まるかもしれないけれども、まずは人数を呼んでこなきゃみたいなですね。だから、そういうのなんかちょっと丁寧にやりながらやっていかなきゃいけない。

今度10月にインドで国際会議があるんですけども、呼んでいただいたので、ちょっと見てこようかなという気持ちはしているところなんです。南インドでも、そういう国際コンベンションみたいなのをどんどんやったりして、そして南インドの状況を広げていこうとされているというのは、あれは自由だと思う。各企業が来ま

すからね。大きな企業と国が来ますから。だから、コンベンションは一つ一つ丁寧に、きちんととっていくというのは大事なんじゃないのかな、というふうには思いますね。大きな国際会議はとっていくというつもりで。そうすると、少しずつ発信されていくんじゃないかなと。

○岩本観光推進課長 先般ありましたLRECという多言語の関係の国際会議でございます。1,000人を超える参加者が、6日間ということで延べ6,000名規模の参加者がありました。中には、宮崎市周辺だけではなくて、自分たちが参加するいろんなセッションの合間を縫って、高千穂あたりまで旅行に出かけられたりとか、あるいは延泊してそういった観光地を回られたりといったこともあったようです。

非常にコンベンションにつきましては宿泊を伴いますし、そういった周辺観光地等への経済波及効果も高いということですので、なかなか競争が今厳しくなっております、世界の中でも、今、中国とかアジアが非常に誘致に名乗りを上げてきている状況の中ですので、まずは日本に持ってくる、それから宮崎に持ってくるということで、非常に競争は激しいんですけども効果の高いものですので、しっかりとそこ辺は取り組んでいきたいと思っております。

○重松委員 今後の取り組みの中で修学旅行、教育旅行、これについての今の取り組み状況と課題はどのようにお考えになっているんでしょう。

○岩本観光推進課長 修学旅行の直近のデータがまだ集計中ではございまして、28年度までしか手元にはございませんけれども。修学旅行につきましては、平成2年に青島の橘ホテルの閉鎖等を踏まえて、あるいは、その間にオーシャンドームが閉鎖したりとかいろいろございました。

そんな中で、宮崎のほうは非常に低調になってはきていたんですけれども、最近では、南九州3県で一緒に合同で誘致活動したりというように、いろんなことをやりながら、徐々に成果はあらわれてきているかなというふうに思っております。

国内のそういう小中学校、高校からの、高校はなかなかないですけれども、小中学校からの誘致もありますし、あと、最近では台湾からの修学旅行というのもふえておまして、28年には13団体1,400泊ぐらいしていただいているということで、このあたりも定期航空路線の就航の効果、誘致活動の成果ではないかなと思っております。

あと、今後の課題といたしましては、なかなか修学旅行というのは、2年先、3年先を見据えて決定していくというようなことですので、そういう関係先にしっかりとコネクションを持って、要するにつながりを消さないように取り組みをつないでいくということと。

あと、最近、学習型のアクティブ・ラーニングと言いまして、より深く地域の課題とかを生徒たちに学ばせるというようなことで、それが一つの教育素材になるというようなことで成果があらわれているやに聞いております。宮崎県はなかなか戦跡めぐりとかそういったポイントが、熊本とか鹿児島と比べて余りないものですから、そういったものをしっかり素材として、宮崎の歴史文化なり神話なり、そういう地域の課題等を一つのテーマに取り上げていただくようなこともこれから進めていきたいなと思っております。

○重松委員 全ての素材を有効活用して修学旅行、教育旅行にも取り組んでいただきたいのと。5月、6月が非常に宿泊者が少ないとか、入り

込みが少ないんで、ここにやっぱり修学旅行生も誘致するのが大事じゃないかなということと。

それから、せっかく宮崎に泊ったら、例えばこの時期、マンゴーを必ず食べさせる、みたいな。我々でも買いたいけれども、結構値段が張って買わない。でも、食べたら絶対感動すると思うんですね。なので、少なくとも宿泊客に対しては、宮崎牛でもいいし、地頭鶏でもいいし、マンゴーでもいいし、必ずそれは補助金つけてでも出して、子供たちに全国の友達にこの宮崎の食のすばらしさをアピールするのは絶対大事じゃないかなと僕は思うんですね。この感動は一生涯残ると思っていますので、その取り組みをぜひやっていただけないかなという要望ですけども、よろしくお願いいたしたいと思します。

○岩本観光推進課長 そういったこともそれぞれ農家民泊とか協議団体、協議会等がございまずので、関係者の方にもそういったお話もしていきたいと思っております。

○松村委員 スポーツキャンプ・合宿について、ちょっとお聞かせいただきたいんですけれども。今のプロスポーツで長年やっていますよね。ここは、九州3県の中では、そちらからもうやましがられるように宮崎の得意なところだと思うんですけれども。これは若干右肩上がりという、プロだけに限らずスポーツキャンプというところはそうでしょうけれども。プロスポーツというのは、今、これ、大体もう目いっぱいなんですか。それとも、まだ施設として受け入れるところがあるのか、あるいは宿泊等の施設としては、まだキャパがあるのか。この受け入れの現状をお聞きしたい。

○丸山スポーツランド推進室長 プロスポーツの受け入れということでございまずと、今、プ

ロ野球7球団ございますけれども、非常に施設でいいますと、プロ野球からの要望というのは非常にハードな、施設の規模でいうと、諸室が必要だったりとかいろんな施設の基準といたしまししょうか、それもかなり高いレベルを要求されて、その施設の見合うところというのが、なかなか宮崎には現状厳しいというところがございます。プロ野球キャンプの誘致に関しては、現状では、なかなかすぐさま新しい球団をとというのは厳しい状況ではないかなと思っております。

あと、Jリーグにつきましては、ここ数年、一時よりは若干チームの数が、例えば沖縄とかに流れている傾向はございまして、そこをいかに今後引きとめてくるかというのが、今後の課題ではないかなと思うんですけれども。

ただ、Jリーグにつきましても、冬芝の問題とかいろんな施設整備が必要でございまして、それを実施している市町村というのも限りがございますので、ここにつきましても市町村を含めて、受け入れについて、いろいろ関係者と協議しながら努めてまいりたいと思っております。

○松村委員 プロスポーツキャンプは7市町ということで、全くかかわっていないというところがたくさんあるわけですがけれども。市町村でぜひ整備したいとか、あるいは誘致に積極的だとか、そういうところはあるんですか。

○丸山スポーツランド推進室長 例えば日向市さんが以前、近鉄バッファローズがキャンプをした時代がございまして、ただ、施設がかなり老朽化しているということで、なかなか予算も含めてすぐ見合うような施設がなかなかできないというようなことで、御希望はあるというようにはお聞きしているんですけれども、ハード面ですぐクリアできる状況にはないというふう

にお聞きしております。

○松村委員 副委員長、何かあります。（発言する者あり）

野球というのはかなり施設面でのハードルは高いでしょうけれども、サッカーとかは、綾町とか人口の小さい町でも積極的に今整備して取り組んでいらっしゃるし、スポーツランドみやぎだから、もっと全県下に市町村、取り組みませんか、もっとやりませんかということでキャパを広げて受け入れ体制をつくっていくということが、将来の伸ばしていく展望の受け皿がないというところに、また大きなこれから伸ばしていく、得意なところを伸ばしていくというところの整備というところが、これから大事なんじゃないかなと思います。

あと、プロに限らず、いわゆる少年から大人まで楽しんでグラウンドゴルフでもいいじゃないですか。そこもスポーツ観光になると思うんです。そのあたりの施設というか、そういうところもリンクさせながら。空白地帯の市町村ってたくさんありますよね。宮崎県挙げてスポーツランドと言うには、ちょっと、もうちょっとかなという気もしています。一番得意な分野なんで、観光客を誘致するには、ここしかないんじゃないかという思いもしています。

もう一つ、今回はちょっと中身に入っていないんでしょうけれども、ゴルフ、サーフィン、サイクリング、スポーツツーリズムのことを書いていますけれども、このあたりの動向というところも、今後ちょっといろいろ資料なり、教えてほしいなというのが1件と。

あと、ひと頃何でしたかね、韓国の皆さんがトレッキング、「オルレ」と呼ぶ者あり）オルレか。という話ありましたよね。これも広がっているのかどうかわかんないんですけども、コ

ースをつくっているいろいろ話があったんですけども。ひと頃お客様の一つの狙いとして、トレッキングとかオルレとかこういうスポーツ、これもスポーツですね、滞在型というか周遊型の観光スポーツとしてという話もありましたんで。その辺どうなんですか、今。

○岩本観光推進課長 オルレについては韓国発祥のいわゆる一般的にトレッキングというようなことで、基準がございまして、全国の中で十数カ所というのを認定されているんですけども、県内では、一応その認定コースというのが、今の高千穂だけという状況でございます。

そういったオルレという方式以外にもいろんな森林セラピーだったり、より自然を散策しながら、その土地の文化なり景観を楽しむといったようなツアーについてのニーズというのは、やはり大きなものがあると思いますし、本県のこの自然環境を生かせる分野ではあると思いますので、滞在型のそういう体験型の素材として、今後やっぱり進めていく必要があるのではないかなと思っていますところでございます。

○松村委員 スポーツの人口というのは、いろんな分野で結構いらっしゃいますんで、その掘り起こしをぜひこれからもお願いしたいと思っております。

以上です。

○黒木委員長 資料については。

○松村委員 次のチャンスでもいいですけども。

○黒木委員長 今、松村委員からありましたゴルフとかサーフィンとかそういったものの細かな資料がありましたら、次の委員会でも提示していただくようお願いしたいと思います。

ほかに質疑ありませんでしょうか。

○井本委員 本で読んだんですけども、スイス

のツエルマットだったかちょっと忘れたが、あそこで観光案内している人がいて、向こうは観光の許可をもらうのも、国が全部認定してもらわないかん。立派なライセンスらしいんだけども。名前は忘れたけれども。前、私も議会で質問したことがあるんだが、その人は、ともかくリピーターを確保するのに大切なのは、そこに住んでいる人たちが誇れる町じゃないと、リピーターは来ないということを口を酸っぱくして言っているんですね。

今、こうやってインバウンドブームになって、これ何でインバウンドかということ、単にビザの発給が簡単になっただけのことなんですよ。この日本が急に観光が出てきたわけでもない。ビザの発給がえらい簡単になった。それだけのことなの、理由は。こんなふえとるのは。だからこのブームのときに来て、宮崎県、例えばこがいなとこに来て、もう一回来ようという気にならんかどうかは今後の鍵ですよ。だから、本当にもう一回来たいというような観光地にするためには、ためにはといってもなかなか簡単じゃないんだけども、そこに住んでいる方たちが誇れる町じゃないとリピーターは来ませんよ、というのが彼の言い方だったですね。私はその辺も、やっぱり一種の哲学じゃないんだけども、全体的な、それこそ福利厚生とかそういうのが大切なということになりますけれども、本当にこの町はいい町だな、住んでみたいなというような、ここが私の町ですよと誇れるような町じゃないとリピーターは来ませんよというのが彼の言い方だったもんだから。

今、インバウンドブームで浮かれてしまっただけけれども、よく次のことを考えてやっぱり手を打つとかんと、単なる一時的な、むしろ逆に、来てみて、何だ大したことない、ここは、とい

うような悪評だけ残したんじゃないかなと困るしですね。今、外国人が来ているいろんな民間のところに泊まって、いろんなことをやっているのをテレビで見られるけれども、あの後、その人たちがまた来なくなるのかどうか、その辺はちょっと私どももわからんもんね。でも、来てみて、日本人と接して話して、日本人はいい人たちだなという感覚になれば、また来たいという感じになるんじゃない。私も世界をずっと2年間放浪してみて、もう一回行ってみたいという印象に残るのは、やっぱりその人たちの直接的に受ける感覚というか、いい人たちだったな、あそこにもう一回行ってみたいなのというのは、そういう部分じゃないかなと私は思う。もちろん観光施設やら何やらをブラッシュアップするのは結構なことだし、やるべきじゃと思うんだけど。本当に来た方たちを大切に。恐らく日本人はみんな大切にしないかなと私は思うんだけど、そんなことを言ったから。単なる一時的なインバウンドブームに乗せられて、何かそれをちゅうことになって、本当に大切なものを見失わんようにしてほしいなというだけの、これは老婆心であります。

○井手商工観光労働部長 非常に大事な観点と
思っております。

きょうの御議論の中でも委員の皆様方からさまざま御議論いただいて、本日は最初の委員会ということで、俯瞰した形で大きくくりな形でデータを御提示させていただいたところでございます。

今後、先ほど申し上げました基金の使い道とか、今後4年間のさらなる観光の推進をどうしていくのかとかいうための議論を進めていこうと思っておりますし、そのためには、今後の取り組みの中に書いていますように、ターゲッ

トに応じたとか、効果的なのかというふうに掲げていますけれども、何をどうターゲットとして見るのか、どうしたら効果的なのかという部分も含めて、旅行をメニューで見るのか、それとも地域で見るとかとかいうのも含めながら、より具体的に議論を内部でもして、皆様方委員のほうにも御提示をできたらと思っております。

中でも大事なものは、最後に井本委員のほうからございましたように、やっぱり地域づくりと観光というのは非常に重要で密接に関係しております。それは最終的にやはり人づくりになるのかなと。それは単純に観光業に携わっている方々だけではなくて、我々県民皆がおもてなしということを考えて、どう人と人を接していくのかと、外から来られた方とどう接していくのかという部分につながっていくのかなと思っております。

そういう意味でも、また来たいと思わせる観光地づくりの中に人材の育成という部分を書かせていただいているんですけども、広く県民の皆様方に伝わるようにどうしたらいいかということ、ことし、しっかり考えてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○黒木委員長 ほかに質疑ありませんでしょうか。

まだまだあるかと思いますが、きょうは初回ですので、まだありますか。

○岩本観光推進課長 すみません、先ほど太田委員のほうから、熊本県のデータについての何か理由がわかればということであったんですけども、ここ数年の傾向ということで確認がとれましたので、説明をさせていただきたいと思っております。

これは震災関係の土木事業者関係者が、長期

宿泊で通年で宿泊しているというのが影響している。だから、このところ熊本市内は特にですけども、宿泊者が通年で稼働率が上がっているということのようです。失礼します。

○黒木委員長 それでは、以上で終わりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 それでは、執行部の皆さんは御退席いただいて結構です。お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前11時11分休憩

午前11時13分再開

○黒木委員長 委員会を再開いたします。

まず、先日開催されました委員長会議の結果につきましては、先日の常任委員会で資料の配付がありましたので、説明は省略させていただきます。御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、協議事項（1）の委員会の調査事項についてであります。

お手元に配付の資料1をごらんください。

1の当委員会の設置目的につきましては、さきの臨時県議会で議決されたところでございますが、2の調査事項は、本日の初委員会で正式に決定することになっております。

なお、この資料に記載の調査事項は、特別委員会の設置を検討する際に、各会派から提案された調査事項を整理し、参考として記載しております。

調査事項は、今後1年間の活動方針を決める重要な事項であります。特別委員会の調査活動は、実質6回程度しかございません。有効な提言を行うためにも、少し時間をとって御議論いただきたいと思います。

調査事項につきまして、委員の皆様から御意

見がありましたらお願いいたします。

○井本委員 海外は行かんの。

○黒木委員長 あとの計画とか調査事項がそうならば、全然可能性がないということはありません。

○星原委員 20億円も聞きに行かないかん。

○黒木委員長 暫時休憩いたします。

午前11時14分休憩

午前11時14分再開

○黒木委員長 再開いたします。

特にありませんでしょうか。何かありましたら、お願いします。（「調査事項」と呼ぶ者あり）調査事項です。（「調査事項が決まって、活動方針になるわけか」と呼ぶ者あり）そうです。

○星原委員 4つ掲げてありますが、順番にいけばですよ、インバウンド対策ということできくと、国内と海外とどういうふうな形で調査するのかということだと思っんですよ。これまで海外の特別委員会も2年間やってきたわけで、それに沿った形でインバウンドとして、国が4,000万人ということ、あとオリンピックまでにとということ、その中のインバウンドの中の部分から宮崎に具体的にどういう形で入ってきてもらうかというのをやっぱり的を絞っていかないといけないのかなというふうに思っんですよ、一つはね。

この東京オリンピック・パラリンピック、ラグビー、スポーツイベント、これも結構、どういう形の調査をしていくのかということなんだけれども、これについてもやっぱり宮崎のものを、木材とか、今言っている施設に使わせるのか、来た人たちを宮崎に来てもらうような対応をするのか、あるいはオリンピックで参加する海外からの人たちを呼び込むための、今県がやっ

ていることにもうちょっと踏み込んでいくのか。我々も委員会として、どういうふうな形の調査をするかをしっかり決めないと、これも漠然とじゃ、なかなか前に進まないだろうなというふうに思いますし。

次の3番目の国体に関してということだと、施設づくりのことをやるのか。我々は観光振興対策なんで、国体で県内、海外から、海外まではないでしょうけれども、国内からの誘客の部分をどういうふうな形にしてやっていくのか。8年後の国体のときだけじゃなくて、その前にやるべきことは何なのかということ提案していかざるを得ないだろうと思うんで、その提案をどういう形、施設づくりもあるでしょうし、呼び込みのいろんなインバウンドの関係をどういうふうな形でやっていくのかっていうのと。県内の26市町村の割り振りがあるだろうと思うんですね。何種類かの他の種目のやつがあるので、そういったものに対してのここの調査をしていくのかどうなのかだと思うんですね。

あと、県内観光だと、4番目だと、今までも掲げてきているので、これの磨き上げをどうするのか。各県内の市町村単位でとか、地域別でとか、ブロック別でとか、何かそういう形で、今後、我々はこういうことをすべきじゃないか、あるいは、こういうことに取り組んでいかなきゃいけないんじゃないかと。特に海外からの人たちを呼ぶとなると、ちょっとさっき思ったんだけど、Wi-Fiなんかのそういったものがどうなのか。そういうものもびしっと整備されているのかどうか。あるいは、観光案内看板なんかのどの程度設置されているか。やっぱり県と市町村がそういう力を合わせてやらんといかん部分があるでしょうから、そういうのをどうするのか。そういう調査目的は結構大き

いんで、回数の割には。どういうふうな形で何の調査をしていくのか、どういうふうにしていくのかを的を絞り込んでおかないと、なかなか厳しいのかなというふうに、調査事項から見えるものは、そういうのを私は感じた。皆さん方がまたどう感じて、調査項目をどこまでどういうふうにしていくのか。この4つの事項の中のどのような形にしていくのかというのを、きょう決めておかないと、なかなか前に進まないだろうなというふうに。

以上です。

○黒木委員長 ほかに御意見ありませんでしょうか。

○満行委員 観光立県宮崎が何で最下位なのかですよね。全国の観光立県、客数もこれも福岡の10分の1だし、観光消費額もこれも福岡の10分の1、インバウンドの延べ宿泊者数も福岡の10分の1。何もかも観光立県宮崎は、いつの間にか、九州各県の最下位になってしまっている、全国でも最下位のレベルにあるという、それで商工観光労働部なんですよね。いつの間にかこうなってしまったのかなという、非常に残念な感じなので。そこをどうするかというところで、それに派生する分は出てくるんだと思うんですけども。

ただ、他県がそうというんじゃないかと。どの数字も2倍、3倍にはできるんじゃないのかと。他県は平然とやっているわけですね。宮崎、これだけ商工観光労働部挙げていろんなことをやっていて、九州最下位、全国でも本当に低いレベルにあるというところはなぜなのかというのを、この1年間やっぱり掘り下げていただきたいなど。（発言する者あり）

○井本委員 ということは、県外視察を中心に見て回ったほうがいいということ。

○満行委員 いくつかは他県の、九州の中でも福岡とか、沖縄は別格かもしれないけれども。

○井本委員 県内を見て回る必要は余りないのか。

○満行委員 だから、比較はしないとダメだと思います。宮崎県の実情、他県の実情、どっかを切って比較をしないと。旅行業界とか行政の取り組み状況とかというのは、違うんじゃないですか。一緒に宮崎がこのオーダーが10分の1だっていうのは、何かがおかしいんじゃないのかな。

○黒木委員長 暫時休憩して、自由意見交換会したいと思います。

午前11時22分休憩

午前11時39分再開

○黒木委員長 それでは、委員会を再開いたします。

調査事項につきまして、今言ったとおり、この3点に絞るといって調査を進めたいと思いますが、御異議はないでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 では、そのように決定をいたします。

次に、協議事項（2）の委員会の調査活動方針・計画についてであります。

活動方針（案）につきましては、資料1の3に記載のとおりであります。（発言する者あり）

協議資料（2）の委員会の調査活動方針・計画についてであります。間違いないですね。（「今、資料3と言ったんですよ」と呼ぶ者あり）そうですか。資料2です。

これにつきましては、議会日程や委員長会議の結果を考慮して作成しております。

活動計画（案）につきまして、何か御意見が

ありましたらお願いいたします。資料2ですね。

○井本委員 インバウンドということからすると、海外にも向いてやっぱりちょっと考えないかん。

○黒木委員長 休憩いたします。

午前11時40分休憩

午前11時48分再開

○黒木委員長 それでは、この調査活動計画（案）を基本に、今後1年間の調査活動を実施していくことにしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 それでは、そのように決定いたします。

次に、協議事項（3）の県内調査についてあります。

再び、資料2をごらんください。7月26日から27日で県南地区、8月8日から9日で県北地区の県内調査を計画しております。

調査事項については先ほど決定いたしました。が、県南調査、県北調査の調査先につきましては、御意見等がありましたらお願いいたします。

○井上委員 一応、周りの人たちが観光地と呼んでいるところ。宮崎県内の観光地。私たちが調査に行くところは、役所に行ったりとかそういうことばかり行っているわけだけれども、一応観光地と呼ばれているところは、どういう状況なのかというのは、全部じゃなくていいわけだけれども、幾つか上げてもらって、そこにはちょっと行ってみて、現状どうなのかとか。これは普通に来たときにどう思うのかみたいなぐらいのことはしてもいいんじゃないかなと思う。今言ったとき、観光地と呼ばれるところ、頭に浮かびます。浮かばないですよ。だから、

それをちょっと私たちが一観光客になったつもりで行ってみるとかというのは、一つ大事なんじゃないかなと思うんです。

○星原委員 そしたら、宮交観光か何かに海外の人たちはどの辺のところを案内しているか、そういうのを聞けば大体わかる。県北ではどの辺の人を案内している、県央ではどの辺、県南ではどの辺を案内のコースに入れているかというので、そういうところに行って聞けば、どうい話が出ているかとか、どういう状況なのか、何か取り組みを云々してほしいとかというのは聞けるかも。我々じゃちょっと思いつかないから。ありそうで、結構いろんなところいるんだけど、果たしてどうなのかって。専門の連中がどこを案内しているかという。中で聞くことは一つの方法として。

○井上委員 そういうのもちょっと入れてもらうといいかな。

○二見委員 そういうのをつくっていますね、宮崎県。

○星原委員 多分あるはず。

○二見委員 パンフレットをつくって、県内各地のいろんなここにありますというのをしているんですけれど。

○星原委員 人気のあるところが、反応がいいところで、多分旅行社が動かしているはずだから、あのおりに動いているんじゃないくて。観光マップもそうなると、変えていくぐらいの話を。

○黒木委員長 ほかに御意見ありませんでしょうか。

○星原委員 あとは委員長、副委員長で、今いろいろ意見が出たんでまとめて。

○黒木委員長 ただいま御意見をいただきましたけれども、これを参考にして日程を決めたい

と思います。調査先との調整などについては、正副委員長に御一任をいただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 それでは、そのような形で進めさせていただきます。

次に、協議事項（４）の次回委員会についてであります。

先ほど御協議いただいた調査事項を踏まえまして、次回の委員会での執行部への説明資料要求について、何か御意見や御要望はありませんか。

○井本委員 県ができることと市町村ができることとは、恐らく違うんだと思う。だから、県ができることはあんまりないのでは。むしろ市町村から上がってくるものを県がバックアップするという形になつとるんじゃないかと恐らく思うんだけど。その辺のところを市町村がどんなふうに上げてきているのか。その辺を聞かせてもらうといいかな。

○星原委員 予算がないから、よっぽどじゃないと、大きいところじゃないと、宮崎市ぐらいじゃないと、町村単位じゃ、観光予算なんてそんな組めないはず。

○井本委員 しかし、今、観光観光って言いよるんだから。

○星原委員 だから県が援助するとか、そういう支援するとかっていうのはできるだろうと思う。だから、そういうのを市町村の人たちから話を聞けば、こういうことをやってもらいたいというのはあるかもしれない。

○黒木委員長 その件についても次の委員会では御意見を出していただきますようお願いいたします。

それでは、次の委員会の内容につきましては、正副委員長に御一任をいただきたいと存じます

平成30年5月21日（月曜日）

が、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 そのようにさせていただきます。

最後に、協議事項（5）のその他で、委員の皆様から何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長 ないようであれば、次回の委員会は、6月定例会中の6月22日金曜日午前10時からを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上で本日の委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前11時54分閉会